

# TZ 〈ほんの窓〉

第 31 号 (2013.7) 一橋大学チーム・えんのした



EU

— 欧州統合拡大の経緯と課題 —



2013

ギリシャ危機を始めとする欧州債務危機は EU を混乱に陥れ、世界経済をも揺るがした。欧州石炭鉄鋼共同体、欧州原子力共同体、欧州経済共同体 3 つの共同体をブリュッセル条約で結びつけ成立した EU は、ヨーロッパの経済統合を深め、27 各国が加盟するまでに成長した。拡大する EU に限界はあるのだろうか。欧州連合 EU の過去・現在・未来を考える。EU の成立からの軌跡を追い、「政治・経済」「中央機構」「小国特集」と 3 つに分けたコラムそれぞれの視点から、EU を再考察していく。

## < 政治・経済 >

国家間の経済的相互依存関係が深まる中、より効果的な協力関係を築く必要性と、他国との利害対立とのジレンマを抱えた地域統合体を政治と経済の観点から改めて考えてみる。

## < 中央機構 >

EU には国家と同じように議会・裁判所や中央銀行といった機構があり、法律もある。それらは加盟各国機関・法律と併存し、どう関わり、どのような役割を果たすのだろうか。

## < 小国特集 >

EU には小国と称される国家も多数加盟しており、それらは大国とは異なる独自の位置から欧州情勢に影響を与えている。EU に関わる小国の歴史、経済及び対外政策を見てみる。

## ◆ 一般的な本 (【 】内は、附属図書館請求記号)

- 『EU時代の到来』 ルネ・クーペルス, ヨハネス・カンデル編 ; 田中浩, 柴田寿子監訳. 未来社, 2009. 【3120:1125】  
ヨーロッパの社会民主主義に対して、様々なテーマを通じて全体・国罰の2つの観点から光を当てた図書。
- 『EU統合の深化』 海道ノブチカ編著. 日本評論社, 2011. 【3337:107】  
EUはどのように統合を進展させてきたか。日本との比較で語られるEUの今。
- 『EUを知るための12章』 パスカル・フォンテーヌ著 ; [駐日欧州連合代表部翻訳]. 駐日欧州連合代表部広報部, 2011. 【3293:153】  
EUについてアカデミックに学びたい学生へ。欧州委員会がEUをダイジェストで紹介。
- 『EUの知識』 藤井良広著. 日本経済新聞出版社, 2010. 【0800:28:1224】  
EUの基本的事柄を網羅し、長年にわたり版数が重ねられ、親しまれてきた一冊。

## ◆ 政治・経済

EU が与える国家内外への影響

- 『ケインズとイギリスの経済政策：政策形成に「ケインズ革命」はあったか?』 G.C.ピーデン著；西沢保訳。早稲田大学出版社, 1996. 【3323:128】  
混乱する EU 経済を鑑み、経済を捉え直す。20 世紀中で最も影響のあった経済学者ケインズの再検証。ケインズは時代遅れか。経済の根本を問う。
- 『EU とフランス：統合欧州のなかで揺れる三色旗』 安江則子編著。法律文化社, 2012. 【3190:2590】  
EU とフランス、その 2 つの関係から何が見えるのか? EU をフランスとの関係から見た一冊。
- 『現代ヨーロッパ経済』 田中素香 [ほか] 著。有斐閣, 2011. 【3323:309】  
EU を学習する際のはじめの一冊。
- 『通貨同盟の経済学：ユーロの理論と現状分析』 ポール・デ・グラウエ著；田中素香, 山口昌樹訳。勁草書房, 2011. 【3389:564】  
単一通貨の保有による費用と利益を理論で分析した教科書。

## ◆ 中央機構

組織としての EU

- 『欧州議会と欧州統合：EU における議会制民主主義の形成と展開』 児玉昌己著；久留米大学法学会編。成文堂, 2004. 【3337:78】  
統合が進む当時の EU における、欧州議会の役割について述べられている本。
- 『欧州中央銀行の金融政策：新たな国際通貨ユーロの登場』 羽森直子著。中央経済社, 2002. 【3384:19】  
ユーロが誕生した頃に書かれ、欧州銀行の金融政策について入門的に学べる本。
- 『EU 法 基礎篇』 庄司克弘著。岩波書店, 2003. 【3293:84:基礎篇】  
EU 法の入門書。平易で取り掛かりやすい。姉妹書に『政策篇』『実務篇』がある。
- 『新ヨーロッパ法：リスボン条約体制下の法構造』 岡村堯著。三省堂, 2010. 【3293:147】  
リスボン条約の発効から、近年のヨーロッパ法の展開に焦点を合わせた一冊。

## ◆ 小国特集

EU を巡る国家の動き

- 『EU の東方拡大と南東欧：市場経済化と小国の生き残り戦略』 小川洋司著。ミネルヴァ書房, 2004. 【3323:220】  
東欧の旧社会主義国が市場経済へ移行した歩みを総括、EU の東方拡大を東欧側の視点から捉える。
- 『激動のトルコ：9・11 後のイスラームとヨーロッパ』 内藤正典編著。明石書店, 2008. 【2270:126】  
イスラーム圏唯一の世俗、民族国家であるトルコとヨーロッパの間で 21 世紀に起きた出来事から、西洋とイスラームの関係を考える。
- 『キプロス島歴史散歩』 澁澤幸子著。新潮社, 2005. 【2920:1188】  
南北に分断された島、ビーチリゾートとして愛される島、歴史的建造物が数多く残る島、そんなキプロス島のヨーロッパ史を凝縮した歴史を概観する一冊。
- 『ルクセンブルクの歴史：小さな国の大きな歴史』 G トラッシュ著。刀水書房, 1999. 【2300:243】  
面積 2586km 人口 40 万人のミニ国家でありながら、怒濤のヨーロッパ史を主権独立国家として生き残ったルクセンブルクの波瀾万丈の歴史に迫る一冊。